**柳田　泉 （やなぎだ・いずみ）**

**１、プロフィール**

近代文学研究家、英文学者。和・漢・洋にわたる造詣を持って資料を博捜し、実証的な明治文学研究に大きな足跡を残し、後進にも広く影響を与えた。

＜生没＞

1894（明治27）年４月27日 ～ 1969（昭和44）年６月７日

＜代表作＞

『政治小説研究』『明治初期の翻訳文学』『明治文学研究』

＜青森との関わり＞

中津軽郡豊田村(現弘前市)に生まれる。

**２、作家解説**

明治34年、外崎小学校に入学、その後、叔母の嫁ぎ先樋口氏に引き取られ、その一家転住に従い、青森さらに黒石町へと移り、黒石小学校に転校する。38年、生家に帰り玉成高等小学校に入学、紅葉、露伴、蘆花などの文学に親しむ。東奥義塾、青森中学校を経て大正３年、早稲田大学文学科予科、４年同本科（英文科）へと進む。

大学在学中、金子筑水、長谷川天渓に接したことが、明治文学研究に進む端緒となる。７年大学卒業、春秋社のトルストイ全集の訳者となり､内田魯庵､木村毅を知る。翌年から翻訳に専念、ホイットマン、ソロー、メレジコフスキーなどの著書を翻訳、出版。11年カーライル全集の翻訳に着手。

大正12年関東大震災に際し文献の喪失に衝撃を受け、明治文学研究に専心することとなる。13年発足の吉野作造・宮武外骨らの明治文化研究会に加わる。

この頃幸田露伴、三宅雪嶺を知り、後の研究の一契機となる。

14年『明治文化全集』の企画に参加、昭和２年東大法学部明治新聞雑誌文庫の集書開始に伴い、閲覧を許され、三千余種の新聞等を整理、後の研究の布石となる。

この間、トルストイ『人生論』ディケンズ『二都物語』、『世界大思想全集』の訳業の印税により生計を立てる。

７年明治文学会の顧問、10年明治文学談話会世話役となり、後進を指導。

昭和10年代『明治初期の翻訳文学』『政治小説研究』上・中・下の名著を完成、さらに戦後、『明治文学研究』（九巻で中絶）に再構成されることとなる。

**３、資料紹介**

〇『操高松千尺』

書画（短冊）

1947（昭和22）年12月19日

362mm×60mm

「操高松千尺」と墨書し、昭和22年12月19日筆と右側に小さく記し、柳田泉と署名する。